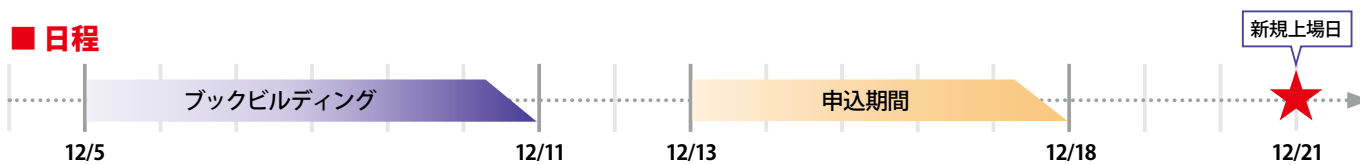


## IPO銘柄 プレミアグループ (7199・東証2部)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹証券
7199	100株	公募: 6.00万株 売出: 478.00万株 (OA72.60万株)	2,260円~ 2,320円 (10.9倍)	野村証券

### ■ 日程



## オートクレジットを中心としたファイナンス事業など展開

### ■ 事業内容

クレジット事業、ワランティ事業の他、その他事業として整備事業、海外事業などを手掛ける。クレジット事業は自動車の購入に伴うオートクレジット専門で、営業担当者は中古車小売店を中心としたオート取引先に特化した営業活動を行っている。一方、ワランティ事業とは顧客の保有する物品に故障が発生したとき、あらかじめ定めた保証の適用範囲内において無償で修理が受けられるサービスであり、同社は自動車ワランティのみを取り扱っている。その他事業として、ワランティ事業で発生する自動車修理業務を内製化し整備事業を手掛ける。国内で培った知見をもとに、タイの関連会社を拠点に海外でもクレジット事業、ワランティ事業などを展開する。オート・ファイナンス事業の単一業態。

### ■ 特徴

独立系であることを生かし、加盟店契約を締結したオート取引先に対し各種サービスを提供。継続的な取引関係の仕組みである「MULTI ACTIVE」を構築し、差別化戦略を進めている。

## アナリストコメント

### ■ 定量分析

18年3月期の連結税引前利益は前期比21.2%増の19億3,700万円を計画する。前期からクレジット事業で残債型クレジット「ザンプレ」、また84回払い超の長期クレジットの取り扱いが本格化。「MULTI ACTIVE」の展開にも力を注いでいる。

### ■ 定性分析

初値買いの入りづらい東証2部案件。しかもファンドが大株主で、売り出し株数の多さもあってファンドの「出口案件」と位置付けられてしまいそうだ。金融関連ビジネスを手掛ける案件は収益のブレが大きいイメージがあり、IPOマーケットで人気化しづらい傾向がある。

### ■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は130億円程度。東証2部案件としては荷もたれ感が強い規模となっている。ファンドが大株主の企業であり、手控え感が出てしまいそうだ。上場ラッシュの最終盤の上場であるため、投資家の「IPO飽き」もありそうだ。(小泉健太)

### ■ 類似企業

プレミアグループ(7199・東証2部)	予想PER10.9倍 (仮条件上限)
Jトラスト(8508・東証2部)	予想PER9.1倍
UCS(8787・JASDAQ)	予想PER10.5倍

### ■ 引受証券

野村証券、大和証券、SMBC日興証券、SBI証券、いちよし証券、岡三証券、極東証券、東海東京証券、マネックス証券、みずほ証券

## 業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	税引前利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
16年3月期(実績)	5,297	—	579	—	330	—	55.1	—
17年3月期(実績)	7,899	49.1	1,297	2.2倍	846	2.6倍	141.1	—
18年3月期(会社予想)	9,122	15.5	1,937	49.4	1,281	51.4	213.0	未定

※ 17年8月に株式分割(1株→100株)を実施。16年3月期と17年3月期のEPSは遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
16年3月期	60,000	28,110	3,332	50	555.4	11.9	9.9
17年3月期	60,000	29,517	4,279	50	713.3	14.5	22.3

※ 16年3月期および17年3月期のBPSは遡及修正

## 大株主上位(上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	AZ-Star1号投資事業有限責任組合	5,506,000	80.35
2	リクルートホールディングス	300,000	4.38
3	柴田 洋一	281,000	4.10
4	金澤 友洋	78,700	1.15
5	大貫 徹	62,000	0.90
6	土屋 佳之	58,000	0.85
7	齋藤 邦雄	51,000	0.74
8	中谷 敏之	33,000	0.48
9	太田 航	29,000	0.42
10	山村 広臣	16,000	0.23
10	北田 剛	16,000	0.23

## 経営陣

役職	氏名
代表取締役社長(代表執行役員)	柴田 洋一
取締役	土屋 佳之
取締役(常務執行役員)	大貫 徹
社外取締役	諸橋 輝樹
社外取締役	中川 二博
社外取締役	鈴木 明美
常勤監査役	亀津 敏宏
社外監査役	樋口 節夫
社外監査役	森脇 敏和

# モーニングスターIPOレポートの読み方

## 特 徴

モーニングスター IPO<sup>(※1)</sup> レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング<sup>(※2)</sup> が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

## 項目説明

### ■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

### ■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

### ■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

### ■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

### ■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

### ■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。